

土木学会誌第55巻, 第56巻用の表紙デザインを募集します

土木学会誌編集委員会は、先回に引き続き、第55巻, 第56巻用の表紙を会員の力作で飾るべく、表紙デザインを下記要領にて募集します。各位研さんのうえ、より多く応募されますようご案内申し上げます。

土木学会誌編集委員会

1. 希望するデザイン

土木学会の一つの柱であります会誌の表紙を2ヵ年に渡り飾るにふさわしい、品位と親しみをあわせもつ、若々しいデザインを希望します。

直線、曲線、その他の組み合わせにより、単純かつ効果的な成果を期待します。

2. 応募資格

土木学会名誉会員、正会員、学生会員に限ります。ただし、土木学会誌編集委員会委員は応募資格を有しません。

3. 応募要領

上記1.の内容につき、1人1件のみ応募できます。応募に際しましては、① B5判原寸仕上げ、② 黒色を含む2色仕上げ/ただし、2ヵ年当分として黒色以外に2種の使用色を指示のこと、③ 使用文字は写植使用のため、応募に際しては仕上と等大にエンピツで記入のこと、④ ケント紙使用のこと、⑤ 挿入文字原稿は、現行の表紙記載字句に準ずること、などを厳守して下さい。作品は、必ず書留便で土木学会事務局編集課（東京都新宿区四谷1丁目、郵便番号160番）へご送付下さい。送付時には、氏名、勤務先、連絡先を明記して下さい。ただし、応募作品は返却致しません。

4. 締切

昭和44年8月20日(水)学会着便までを受け付けます。

5. 審査および発表

土木学会誌編集委員会が審査をなし、一席入賞作品（採用デザイン）および入賞作品、同氏名を会誌第54巻第10号誌上に発表します。ただし、印刷に際しましては、委員会の判断により専門家に依頼して一部修正をすることがあります。

6. 賞

- 一 席（1名）：本賞および副賞5万円
- 二 席（1名）：本賞および副賞2万円
- 三 席（2名）：本賞および副賞1万円
- 佳 作（4名）：記念品

昭和44年度 土木学会誌掲載懸賞論文を募集します

土木学会誌編集委員では、明春新年号（第55巻第1号）掲載の下記論文を懸賞募集します。各位研さんのうえ、より多く応募されますようご案内申し上げます。

土木学会誌編集委員会

記

1. 主題および希望する論文内容

<主題一 1 / 年令制限なし>

- 建設工事施工の合理化への提言——体験例、失敗例をとおして——

高く評価されているわが国の経済発展の基盤を支えている建設産業は、加速度をもって増加してくる工事量を消化してゆかねばならない宿命を持っている。しかるに、技術者、労働者の絶対量の不足は覆いがたいものがあるだけに、施工の合理化は各方面から求められている重大事ではあります。今後とも鋭意努力を重ねてゆかねばならないこの時代の要求に対し、会員各位の豊かな経験と知識を駆使して、本論文をして建設的な論旨の展開を望みます。

<主題一 2 / 年令制限・昭和19年1月1日以降出生の正会員および学生会員>

- 土木教育に何を望むか

今日大きな社会問題となっております大学問題は、明日のわが国の存在をも問われている大問題ではあります。また、工業高校、高専等における教育、あるいは各職場内における再教育も、大きな関心事です。この時点にあって、特に土木教育に焦点を絞って若い世代からの建設的な提言を募ります。大きな視野と豊かな展開を希望します。

2. 応募資格

土木学会名譽会員、正会員、学生会員、に限ります。ただし、土木学会誌編集委員会委員は応募資格を有しません。

3. 応募要領

上記記載の内容につき、1人1主題1編のみ応募できます。応募に際しましては、氏名、勤務先、連絡先、生年月日を明記のうえ、書留便にて土木学会事務局編集課（東京都新宿区四谷1丁目・郵便番号160番）へご送付下さい。ただし、応募論文は返却致しません。

4. 原稿用紙および論文の長さ

横書き400字詰原稿用紙を使用、20枚以内にまとめて下さい。

5. 締切

昭和44年9月20日（月）学会着便までを受け付けます。

6. 審査および発表

土木学会誌編集委員会が審査をなし、上位入賞（一席または二席）を学会誌第55巻第1号誌上に掲載します。なお、同時に入賞者の発表も行ないません。

7. 賞

各主題ごとに	
一席（1名）	本賞および副賞4万円
二席（1名）	本賞および副賞2万円
三席（2名）	本賞および副賞1万円
佳作（4名）	記念品

東海道線と総武線を結ぶ 東京地下駅建設工事

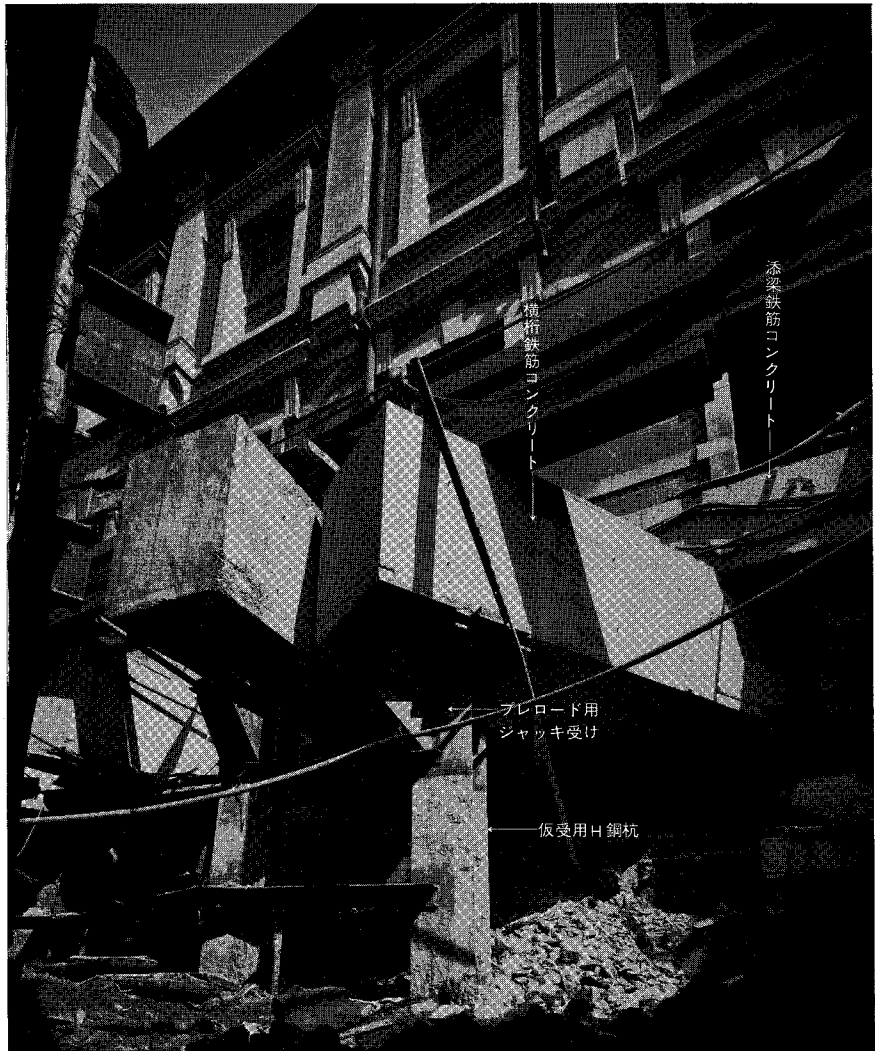


国鉄は、首都圏の通勤輸送を抜本的に改善するため、東海道線と総武線の複線増設を行なっているが、このうち東京駅をさきむ品川～两国間（10 km）を地下鉄道として建設することとし、現在工事を行なっている。この2つの路線を東京駅丸の内広場の地下で結び、東海道方面と総武方面を直通連絡とすることとしている。この東京地下駅は、地下5階、長さ320

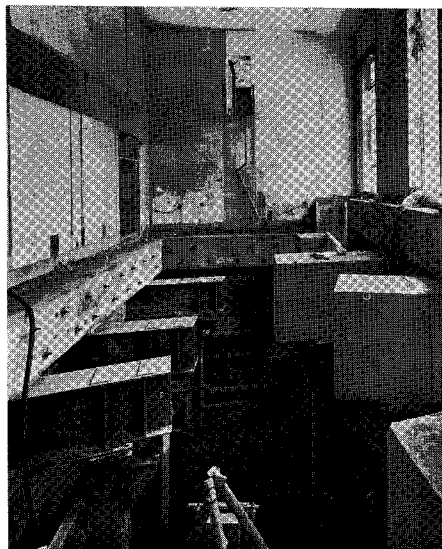
m, 幅 12 m, 島式ホーム 2 本を有する大規模なものであり、総工事費は 238 億円と試算されている。昭和 43 年 4 月着工, 昭和 47 年 10 月完成の予定である。詳細については、本文報告欄を参照されたい。

写真説明

- 1 工事中の丸の内広場全景 (カラー)
- 2 連続地中壁の鉄筋建込作業。写真右側から、クラブバケットによる掘削機、パーカッション方式による掘削機、連続地中壁の鉄筋建込中のクレーン
- 3 路面覆工下の掘削。右側は連続地中壁
- 4 丸の内側駅本屋のアンダーピンニング。外から見たところ
- 5 丸の内側駅本屋のアンダーピンニング。建物内部から見たところ



4



5

内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理に供して下さい。

新東京国際空港の計画と新空港関連事業／塘 恒夫

土木学会誌第 54 巻第 5 号, pp. 2~9, 昭和 44 年 5 月 (May 1969)

新東京国際空港は、現在東京周辺唯一の国際空港である羽田空港の質量両面にわたる隘路打開のために、日本の新しい表玄関にふさわしく、約 1060 ha の敷地に、斬新な施設を持つ空港として建設されるものであるが、その建設および管理の任に当る新東京国際空港公園においては、現在用地買収も順調な進捗を見せ、また新空港の基本計画もほぼ固まってきた。一方、新空港の建設と歩調を合せて、その重要性が強調されている新空港関連事業の計画もほぼ確定し、昭和 44 年度予算からともにも本格的な工事にとりかかろうとしている。

本論文は、新空港の紹介として、その建設の意義、位置決定とその後の経緯、基本計画と運営の概要等について述べ、さらに、新空港関連事業の内容について記述したものである。

東京地下駅の建設／富井義郎・林 正雄

土木学会誌第 54 巻第 5 号, pp. 10~18, 昭和 44 年 5 月 (May 1969)

国鉄では激増する首都圏の通勤輸送の混雑を緩和するため、東海道本線と総武本線に複線の線路増設を進めているが、このうち東京駅を中心として、東京~品川間 6.8 km と東京~両国間 3.2 km を地下鉄道として建設している。この二つの路線を東京駅の地下で結び、東海道方面と総武方面を直通で連絡するため、東京駅丸の内広場の下に地下駅の建設を行なっている。本論文は、この東京地下駅（地下 5 階、15 編成の電車が発着できる大規模なものである）の計画、設計、施工上の多くの特異点と、計画決定までの経緯、設備計画、工事内容、施工方法について概要を述べたものである。

海水取水時の沈砂池機能と放水口の洗掘—東海発電所を事例として—

大西外明・小西 勇

土木学会誌第 54 巻第 5 号, pp. 19~24, 昭和 44 年 5 月 (May 1969)

最近、冷却用循環水として、直接外洋から大規模な取水を行なう機会が特に多くなってきている。この場合、浮遊砂の混入はある程度避けられないが、浮遊砂を完全に除去する沈砂池の設計方法はまだ確立されていない。本論文では、復水器細管の摩耗度と沈砂池構造の双方を勘案した経済設計が必要であることを論じ、同時に東海発電所を例に取り、沈砂池滞積物の調査結果に基づいて、同発電所沈砂池の能力のチェックを行なった。別に、東海発電所放水口の洗掘に関して、放水口先端部の洗掘状況を調査し、設計当時に行なった模型実験による実験結果と実際の洗掘状態を対比した比較検討をもあわせ行なった。

強大な膨張性土圧を受けた頸城トンネルの施工／金原 弘・美藤恭久・原 恒雄

土木学会誌第 54 巻第 5 号, pp. 25~32, 昭和 44 年 5 月 (May 1969)

北陸トンネルに次いでわが国第 2 位の複線鉄道トンネル (11 355 m) となる頸城トンネルは昭和 44 年 3 月末完成した。本トンネル工事はまれにみる強大な膨張性土圧をもった泥岩に遭遇したため途中 8 ヶ月にわたり工事を中止、その間種々の工法を試みて完成に至ったものである。本論文は、「まえがき」、「頸城トンネルの概要」、「第 1 工区の掘削の経緯」、「在来の対応工法の検討」、「新しい掘削方式」、「土圧の測定」、「あとがき」の 7 編からなり、150~200 t/m² という強大な土圧との闘いを簡明に記述したものである。

首高速道路東両国インターチェンジ工事の概要／中村正平・加藤正晴・内藤誠一・三浦 尚

土木学会誌第 54 巻第 5 号, pp. 33~39, 昭和 44 年 5 月 (May 1969)

首都高速道路東両国インターチェンジは、6 号線と 7 号線の分岐点であってその大部分が隅田川上に位置する。そのために、橋脚位置の選定に大きな制約を受け、交差する橋脚同士を吊材で結んだ吊構造や曲線桁などの特殊な構造となった。また、交差する桁の配置のため、背の高い鋼橋脚を設けることが必要となり、これらの橋脚と曲線桁を一体とした構造物の動的挙動についても実験的に調べることにした。さらに、上部構造については、すでに竣工した首都高速道路羽横線多摩川橋に引き続いて、鋼床版現場継手を現場溶接で行なうことにした。今回は、裏当金を用いない自動溶接工法であるブラックスパッキング法の 1 種（神鋼 RF-1 法）を用いることとし、施工試験を行なった。

鉄筋コンクリート 工場製品設計施工指針案

B 6・228 650円 会員特価 550円 (〒70)

橋梁、土止壁、基礎杭、まくらぎ、などプレキャストコンクリート製品の応用範囲は広がる一方である。長年にわたる委員会の努力により、完成した最新の指針。条文・解説のほかに、関連するJISのすべてを収録。

ディビーク 工法設計施工指針案

B 5・88 700円 会員特価 500円 (〒80)

MDC工法設計施工指針案

B 5・94 700円 会員特価 500円 (〒80)

パウル・レオンハルト 工法設計施工指針案

B 5・100 700円 会員特価 650円 (〒80)

レオバ工法設計施工指針案

B 5・84 700円 会員特価 650円 (〒80)

各PC工法を、総則、材料、施工、設計の4編に分け、各条ごとに解説をつけ、各工法に関する詳細な参考事項を巻末に収録したPC工法別の設計・施工のための親切な指針。

土木材料実験指導書 昭和44年版

B 5・230 490円 (〒70)

セメント、骨材、コンクリート、鉄筋、アスファルトの5章に分け、それぞれの試験方法を解説し、巻末には試験結果を整理しうるデータシートを豊富に入れ、品質管理、異形鉄筋などを追加した最新版で学校教材に最適。

土木年鑑 1969

B 5・470 3500円 (〒とも)

口絵写真、論説、展望、工学技術および関連資料、事業、資料などに分類し、それぞれの専門家が執筆したビジュアルな年鑑。土木建設界と関連産業の動向を系統的に眺めうる、わが国唯一の役に立つ年鑑。学会編集・鹿島出版会刊。

橋 1967-1968

A 4・82 1500円 (〒150)

土木学会田中賞の設立を記念して誕生した、わが国橋梁界の歩みを年度ごとに通覧できる美しい橋の年報。受賞論文、受賞作品および応募作品などの紹介に加え、1967年に竣工した主要橋梁の一覧表を収録。一部カラー印刷。

塑性設計法の歩道橋への適用／伊藤 学・前田幸雄・深水正保・鳥居邦夫・正道博昭

土木学会誌第 54 巻第 5 号, pp. 40~47, 昭和 44 年 5 月 (May 1969)

歩道橋を対象として、塑性設計規準の提案と、それによる概略設計結果の報告を行なった。あわせて塑性設計法の特長を解説し、これらの設計例では不静定構造においては慣用の許容応力度設計に比して経済的設計が可能であることを確かめ、さらに今後検討すべき問題点を提起している。

わが国における最近の耐震工学の諸問題／土木学会耐震工学委員会

土木学会誌第 54 巻第 5 号, pp. 48~54, 昭和 44 年 5 月 (May 1969)

わが国は環太平洋地震帯上にあつて、しばしば大きな地震に見舞われており、地球全体の地震エネルギーのおおよそ 1/6 がわが国および周辺で放出されているといわれている。これに対し地震の科学的観測が明治の初めより行なわれ、地震の研究、耐震構造の研究が絶えず進められてきた。本文においては、わが国における最近の耐震工学の動向について、土木工学の分野を中心に、地震観測、構造物の耐震、地震警報、都市の地震防災の順に記述し、最後に振動台上に位置するとみられるわが国においては、国土の高度利用に伴います震害の問題が重要性を高めて行くであろうし、総合的に対策を考えねばならなくなるであろうことを述べた。

岩国錦帯橋のこと／堀井健一郎

土木学会誌第 54 巻第 5 号, pp. 55~60, 昭和 44 年 5 月 (May 1969)

日本三奇橋の筆頭にあげられるこの橋については、すでに多くの文献があるが、昭和 25 年に下部工ごと流失したあとのことについてはあまり知られていない。またその再建後に行なわれている各種調査結果については、建築関係者によって一部が発表されているだけである。今をさる約 300 年前に創建されたこの橋が、近代橋梁工学の批判に十分耐えるだけの合理性を備えていることをこれらの調査はあらためて明らかにした。本論文はこのような観点からこの橋の歴史を振り返り、現在われわれがみることのできる錦帯橋に至るまでの経過を紹介したものである。

マイヤールの橋を訪ねて／—構造設計とは何か—／関 淳

土木学会誌第 54 巻第 5 号, pp. 61~64, 昭和 44 年 5 月 (May 1969)

西ドイツに滞在中の筆者が、かねて見たいと思っていたスイスの構造家マイヤールの美しい橋の数々を訪ね、構造を専門とする立場からの私見を述べている。「橋の美学とマイヤール」、「マイヤールの橋を訪ねて」、「構造設計とは何か」、「あとがき」の 4 編からなっている。

スペクトル解析の海岸工学への応用／文献調査委員会

土木学会誌第 54 巻第 5 号, pp. 65~74, 昭和 44 年 5 月 (May 1969)

「スペクトル解析」は海岸工学の分野では波浪観測結果をスペクトル計算するにとどまらず、波の発生問題、海底摩擦等による波浪スペクトルの変形、不規則波の波力スペクトル、さらに表面波の 2 次干渉、波浪の予測フィルター・変換フィルターまで応用されている。本文では、スペクトルの理論と計算方法を、1. はじめに、2. パワースペクトル、3. クロススペクトル、4. 周波数応答関数、5. パイスペクトル、で述べ、海岸工学への応用として 6. 波の発生、発達、7. 波浪観測、8. 波の変形、9. 波力のスペクトル、10. その他、の項目にわけ解説した。

水理公式集頒布

— 昭和 38 年増補改訂版 —

水理公式集の初版が発行されたのは昭和 17 年です。それから 2 回の改訂が行なわれましたが、昭和 38 年に刊行された本書は現在世界中で使用されている代表的な公式をすべてとり入れ、第 1 編 河川、第 2 編 発電水力、第 3 編 上下水道、第 4 編 港湾および海岸の 4 つの大項目に分け、それぞれを 7~11 の中項目を設け詳細に解説した世界でも珍しいユニークな公式集です。参考書としてぜひご利用下さい。

体 裁：A5 判 603 ページ 定 価：1400 円 会員特価：1100 円 送 料：150 円

第15回海岸工学講演会講演集 ● B 5 ・ 372 頁 ・ 3 500 円 (千 110 円)

1. 風波におよぼす油膜の効果に関する実験〈日野・片岡・金子〉
2. 有限振幅波の shoaling について (2) 〈岩垣・酒井〉
3. 表面波による振動流境界層に関する実験的研究〈堀川・渡辺〉
4. 浅海重複波による質量輸送〈野田・川嶋〉
5. 砕波による水理特性〈中村・白石・佐々木〉
6. 砕波帯の波の研究(1)―観測法および例―〈井島・松尾〉
7. 海岸構造物不連続部の波高分布について(3)〈三井・川崎〉
8. 造波水路における波浪実験の二, 三の問題点について〈合田〉
9. 博多湾の風と波―低風速時の一例―〈光易〉
10. 中予海岸における波の推算と問題点〈浜口〉
11. 大潟海岸における波浪推算の一例〈柿沼・石田・門司〉
12. 記録にもとづく海岸波浪の非線型性の解析〈柿沼・石田・門司〉
13. 防波堤の設計波浪に関する二, 三の考察〈尾崎・川上〉
14. ピアソン型分布による海の波〈久宝・竹沢・天竺〉
15. 不規則な波の入射および反射エネルギー スペクトルの測定法について〈鹿島〉
16. 波動による球の振動〈椎貝・河野〉
17. パイルに働く波力のスペクトルの理論―流れと波の共存する場合―〈日野〉
18. 低基混成堤に働く波圧〈永井・大坪〉
19. 波と流れによる砂の移動について〈中村・白石・佐々木・伊藤〉
20. 波による砂連のスペクトルについての実験〈日野・福岡・古沢〉
21. 沿岸流速に関する二, 三の考察〈堀川・佐々木〉
22. 堤防前面の海浜変形に関する一考察〈細井・荒川〉
23. 海岸侵食と海水準変動〈高〉
24. 海蝕崖の侵食に関する実験的研究〈堀川・砂村〉
25. 皆生海岸の侵食について〈馬場・河村・成石〉
26. 鹿島港防波堤延長工事に伴う海底地形の変化について〈佐藤・田中・入江〉
27. 離岸堤工法について〈豊島〉
28. 海中浮泥の分布と渦面への影響について〈満田〉
29. 密度流の問題(3)〈浜田〉
30. 河口における塩水と淡水の混合〈福島・八鍬・高橋・大谷〉
31. 河口の流れの構造(1)〈柏村・吉田〉
32. 河口閉塞にともなう河道内水位の変化について―河口閉塞機構に関する基礎的研究; 第3報―〈樺木〉
33. 深層取水の流れへの考察(Ⅱ)〈大西・日野〉
34. 有限振幅の定常長波〈首藤〉
35. 異常潮位に関する統計的考察〈村木・鎌田〉
36. 河川潮汐の研究(1)〈宇野木〉
37. L字形湾の振動特性について(2)〈堀川・首藤・西村〉
38. 十勝沖地震津波調査報告〈堀口・横田〉
39. 海岸における鋼構造物の防食について(2)〈向江脇・沢村・谷・前田〉
40. 不規則波に対する護岸の期待越波流量について〈合田・竹田〉
41. 海岸堤防の越波の飛散(水平)分布について―のり勾配の影響―〈高田〉
42. 海岸堤防の越波について〈富永・佐久間〉
43. 海岸堤防の越波実験における縮尺効果について〈岩垣・井上・金田〉
44. 浮防波堤の模型実験〈久宝・大橋・牧野〉
45. 透過性鋼管防波堤とその基部洗掘〈林・服部〉
46. 工業用水の取放水問題〈和田・片野〉
47. 海岸に放出する水力発電所放水路への海水侵入について〈中村〉
48. 淡水湖における淡水層中への塩分鉛直拡散〈南・福岡〉
49. 火力または原子力発電所より放出された温噴流の湾内拡散〈林・首藤・川上〉
50. 湾内における物質の拡散―東京湾の場合―〈堀口・石塚・横田〉
51. 水理模型実験による廃水拡散の研究(1)〈江村・鬼塚・深尾・山口〉
52. Water Curtainによる波浪の減衰に関する実験的研究―鉛直上向き噴流列の応用研究―〈室田・村岡・中山〉
53. 潜堤による風波の減衰機構について〈堀川・小森〉
54. 透過性構造物の減勢機構に関する実験的研究〈久保・井田〉
55. 水路を遡上する波の減勢工に関する二, 三の考察〈千秋・藤本・島田〉
56. 合掌ブロックの特性について〈永井・大坪・遠藤〉
57. 二重カーテン壁消波工の消波効果について〈加藤・乃万〉

◆バックナンバーあり。第14回 2 500 円・第13回 2 200 円・第12回 1 500 円◆

会 告

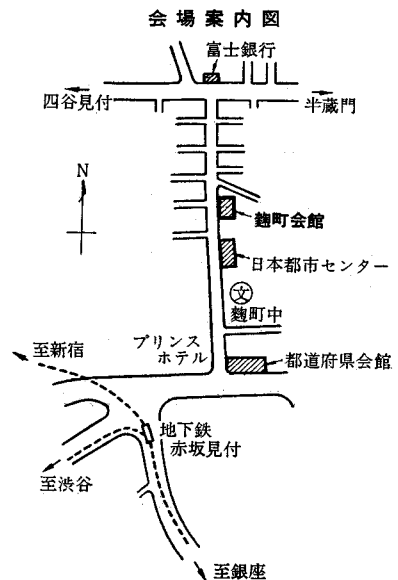
社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	5月30日(金)	第55回通常総会	東 京	5号会告1頁参照
	7月15日(火)	第10回地震工学研究発表会	土 木 学 会	5号会告5 "
	~16日(水)			
	8月7日(木)	昭和44年度夏期講習会	東 京	5号会告2 "
	~8日(金)			
	8月28日(木)	第2回土木計画学講習会	土 木 学 会	5号会告6 "
	~29日(金)			
9月4日(木)	同	大 阪 市	5号会告6 "	
~5日(金)				
9月26日(金)				
~28日(日)	全国大会・第24回年次学術講演会	東 京	5号会告2 "	
中 部 支 部	6月12日(木)	第1回講演会	名古屋	5号会告7 "
関 西 支 部	5月21日(水)	第42回通常総会	大 阪 市	4号会告13 "
中 四 支 部	7 月 中 旬	支部総会・特別講演会・年次講演会	未 定	5号会告8 "
そ の 他	6月3日(火) ~5日(木)	第7回接着研究発表会	東 京	5号会告9 "
お 知 ら せ	<ul style="list-style-type: none"> ■第13回材料研究連合講演会講演募集 ■土木学会視聴覚教育委員会選定映画制度について ■Coastal Engineering in Japan, 1969 掲載原稿の公募について ■第16回海岸工学講演会講演募集 ■第19回応用力学連合講演会講演募集 ■鋼材使用による急速施工説明会 ■水の産業科学展示会 1969 開催のお知らせ ■第7回接着研究発表会および接着破壊の機構討論会の開催日変更について ■第13回国際水理学会会議 ■IAHR シンポジウム 			4号会告5 " 4号会告6 " 5号会告3 " 5号会告4 " 5号会告6 " 5号会告7 " 5号会告8 " 5号会告9 " 5号会告9 " 5号会告10 "

第55回通常総会開催のお知らせ

昭和44年の通常総会は、つぎの日程で東京都において開催いたします。
 総会后、特別講演、映画、懇親会がありますから、多数ご参加下さい。

1. 日 時：昭和44年5月30日(金) 13.30~18.00
2. 場 所：麴町会館1階大ホールA(東京都千代田区平河町2-6,
地下鉄赤坂見付下車5分)
3. 次 第：
 - 総 会；事業報告、決算報告、名誉会員推挙、土木学会賞の授与、新役員の紹介
 - 特別講演；(15.00~15.45)
海外進出と土木技術者
日本工営株式会社 社長 久保田 豊
 - 映 画；(15.50~17.00)
礎、青函トンネル第1部(映画コンクール優秀作品)
 - 懇 親 会；(17.00~18.00)
麴町会館1階大ホールB、会員の多数参加を希望します。会費500円、当日ご持参下さい。



昭和 44 年度夏期講習会

◀ 8 月 7 日 (木)～8 日 (金) ▶

毎年夏から秋にかけて日本列島を襲う台風は、高潮、暴風波浪などによって数多くの災害をもたらし、時には多くの人命を奪っています。また地震国であるわが国には多数の地震がおり、それにとまらぬ津波の発生が心配されるばかりか、チリ地震津波のように外国で起きた地震による津波の被害もみられます。四方を海に囲まれたわが国は長い海岸線を持ち、かつ海岸の開発や利用が活発に行なわれている現在、これらの海岸の防災については常に考慮しておかなければなりません。このような自然の猛威から国土を守るのは土木技術者の使命といえましょう。このたび「海岸保全施設設計便覧」が 12 年ぶりに改訂出版されることになり、これを機会に、本年度の夏期講習会のテーマとして取り上げることになりました。すなわち海岸における水理現象、海岸調査、海岸構造物の設計法および特殊海岸工事等海岸施設のあらゆる保全対策とその設計方法について講習を行ないますので多数参加されるようご案内します。

1. 期 日：1969 年 8 月 7 日 (木)～8 日 (金) の 2 日間
2. 会 場：杉並公会堂 (杉並区上荻 1-23-15, 国電・地下鉄、荻窪駅下車徒歩 5 分)
3. 参加費：未定
4. 講習内容：海岸保全施設と設計 (詳細は次号でお知らせします)

土木学会昭和 44 年度全国大会

土木学会昭和 44 年度全国大会は、第 24 回年次学術講演会をはじめ、特別講演会、PR 講演会、懇親会、見学会をつぎの日程で東京都において開催いたします。

懇親会、見学会、講演概要集購入などの申込み方法は、学会誌 7 月号でお知らせします。

1. 特別講演会：昭和 44 年 9 月 26 日 (金) 9.30～12.30 於砂防会館ホール
2. 部門講演会： " { 9 月 26 日 (金) 13.30～17.30
3. 第 24 回年次学術講演会： " { 9 月 27 日 (土) 9.30～17.30
- " { 9 月 28 日 (日) 9.30～17.30 於麹町会館ほか
4. PR 講演会： " 9 月 26 日 (金) 13.30～16.00 於安田生命ホール
5. 懇 親 会： " 9 月 27 日 (土) 18.00～20.00 於ホテルニュージャパン
6. 見 学 会： " 9 月 29 日 (月)～30 日 (火)
 - 1 班 中央道富士五湖方面 (河口湖泊, 東京駅解散) 9 月 29 日, 30 日 (1泊 2日)
 - 2 班 日光金精峠方面 (湯元泊, 大宮駅解散) 9 月 29 日, 30 日 (1泊 2日)
 - 3 班 東京都内コース (東京駅解散) 9 月 29 日 (日帰り)

第 24 回年次学術講演会

◀ 9 月 26 日 (金)～28 日 (日) ▶

土木学会第 24 回年次学術講演会は、昭和 44 年度全国大会学術講演会として、昭和 44 年 9 月 26 日 (金), 27 日 (土), 28 日 (日) の 3 日間、東京都内において開催することになりました。

今回は、諸般の情勢から、会場は市街地ビルの会議室を使用します。ご不便な点もあることと存じますが、ご了承願います。

なお、講演申込みを行なった方は 3. を参照のうえ期日までに必ず講演概要の原稿提出 (期限 6 月 10 日必着) をして下さい。

記

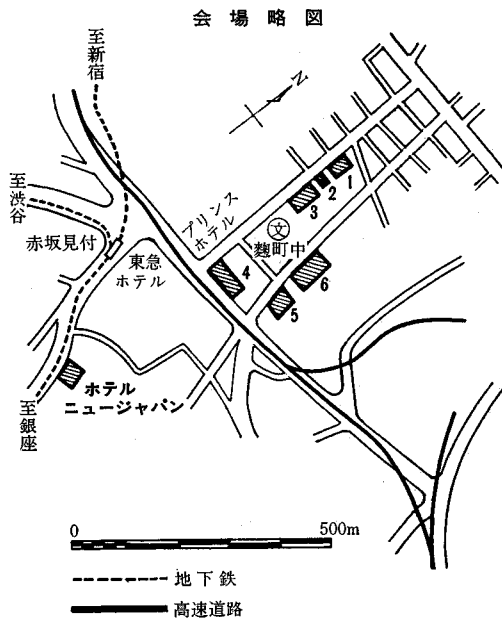
1. 実施期日：昭和 44 年 9 月 26 日 (金)
- 27 日 (土)
- 28 日 (日)

2. 実施場所：麴町会館，日本都市センタービル，都道府県会館，砂防会館，全共連ビル その他（いずれも東京都千代田区平河町2丁目 地下鉄赤坂見付から徒歩 5～6 分）

3. 講演概要原稿：

- ① 概要の目的；講演概要は，聴講者に内容を徹底させ，あわせて講演時間を短くし，かつ来聴できない会員に講演内容を速報するために作成します。
- ② 内 容；講演概要は，一般会員がこれによって十分理解できるよう，研究の考え方と結論をわかりやすく書いて下さい。
- ③ ページ数；原稿の長さは，原則として2ページとします。超過する場合は4ページとします。3ページのものや4ページを超えるものは受付けません。
- ④ 原稿用紙；原稿をそのまま縮写してオフセット印刷としますので所定の原稿用紙を用いて下さい。原稿用紙は執筆要領とともに各支部に準備してありますから，所属支部へ請求して下さい。
- ⑤ 提出期限；6月10日（火）必着のこと。期限までに原稿提出のないものは講演申込みを取消します。
- ⑥ 提出あて先；下記へ直送して下さい。

〒160 東京都新宿区四谷1丁目
土木学会関東支部内 全国大会講演係



4. 講演概要集頒布：

講演概要集は，すべて有料とし，無料交付はしません。学会誌7月号とじ込み予定の購入申込書によってお申込み下さい（申込期限 8月20日予定，送本 8月末予定）

講演者（連名者を除く）には各自の原稿の別刷 30部を贈呈しますが，特別の増刷はいたしません。

5. 講演申込者へお願い：

講演概要原稿提出は，必ず期限を守って下さい。期限後到着のものは，プログラム編成，概要集の編集と印刷の作業進行上全く余裕がありませんので，残念ながら受理できません。あらかじめご了承ください。

講演概要原稿必着日 6月10日（火）

Coastal Engineering in Japan, 1969 掲載原稿の公募について

土木学会海岸工学委員会では Coastal Engineering in Japan, 1969 に掲載する原稿を公募致します。提出される原稿は第 15 回海岸工学講演会に発表されたものを原則としますが，それ以外のものでも結構です。下記要項をご参照の上 6 月末日までにご提出下さい。

なお提出された原稿は海岸工学委員会では査読のうえ必要に応じて修正をお願いすることがありますのでご了承ください。

投 稿 要 項

- ① 投稿される原稿はすべて英訳し，タイプ用紙にダブル スペースでタイプ打ちすること。
- ② 図面はそのまま製版にとれるよう線図，文字，符号等すべてトレーシング ペーパー（白か透明）にスミ入れし，著者の責任において完全な図面を提出して下さい。なお，第 15 回海岸工学講演集の図面を使用する場合は，その旨明記し，別刷に訂正箇所を指示して下さい。

- ③ 原稿1編当りの長さは、刷上り10ページを原則とし（刷上り1ページ当り600ワード）とし、掲載原稿はすべて1500円の掲載料をいただきます。なお、規定ページを超過した分については1ページ当り2500円負担していただきます。掲載料は本文刊行後請求いたします。
- ④ 校正は著者校正とし、校正の時に原稿を大幅に変更した場合は組替え料（実費）をいただきます。
- ⑤ 著者には本書一冊を差し上げますが、別刷は希望者のみ実費で差し上げます。
- ⑥ 1969年版の予定は下記のとおりです。
 - ・原稿締切：1969年6月末日
 - ・著者校正：1969年10月以降
 - ・刊行予定：1969年末

注：第15回海岸工学講演会の節 Coastal Engineering in Japan に掲載申込みを行なった方も上記要項もご参照のうえ原稿を提出して下さい。

第16回海岸工学講演会講演募集

第16回海岸工学講演会は12月に開催することになりましたので、講演ご希望の方は下記によりご応募下さい。

1. 開催時期：1969年12月初旬
2. 場 所：大阪市
3. 講演申込締切：1969年7月10日（木）
4. 講演原稿締切：1969年8月15日（金）
5. 講演募集要項：
 - (1) 講演申込みの際は、つぎの事項をお書きの上、お申込み下さい。
 - ① 講演題目
 - ② 著者名（連名の場合には登壇者に○印をつける）ならびに職名および連絡先住所
 - ③ 刷上りページ予定数
 - ④ 寄贈以外の別刷希望数（別刷50部は寄贈致します）
 - ⑤ スライド、図面等の有無
 - (2) 同一内容の講演を一緒に2つ以上申込むことおよび同一著者が重複して登壇するものは受付けません。
 - (3) 原稿1編の長さは原則として6ページ以内（400字詰原稿用紙30枚以内（図、表、写真を含む））と致します。
 - (4) 原稿の内容により6ページ以内に収録することが困難な場合は著者に実費（超過1ページにつき約5000円）を負担していただきます。また、ページ超過希望の場合は、原稿提出の際、必ずその旨明記して下さい。
 - (5) 講演の採否ならびに Coastal Engineering in Japan への掲載の採否については、海岸工学委員会にご一任下さい。
 - (6) 講演原稿は、“原稿執筆要項”に基づき執筆していただきます。なお、“原稿執筆要項”は原稿用紙と一緒に送付致します。
 - (7) 講演申込先および連絡先
〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会海岸工学委員会 TEL. (03) 351-5138（代表）

新刊雑誌のお知らせ

最近、ニュージーランド地震工学会から下記の雑誌が刊行された。

Bulletin of the New Zealand Earthquake Engineering Society

毎年4回から6回発行される予定であり、まだ創刊号から揃えることができる。購読料は1年あたり5ドルである。購読を希望する個人または団体は、下記へ問い合わせられたい。

Secretary,

New Zealand Institution of Engineers, P.O. Box 5036, Wellington, NEW ZEALAND.

第10回地震工学研究発表会

◀ 7月15日(火)~16日(水) ▶

標記研究発表会を下記により開催致しますので多数ご参加下さるようご案内致します。

1. 期 日：1969年7月15日(火)~16日(水)の2日間
2. 会 場：土木学会土木図書館講堂
3. 主 催：土木学会耐震工学委員会
4. プログラム：○印は講演者

第1日：7月15日(火)

- 9.30~9.35 開会あいさつ 土木学会耐震工学委員会委員長
- 9.35~9.55 (1) 軟弱地盤の地震応答について 東北工業大学工学部 浅田 秋 江
- 9.55~10.15 (2) 振動をうける砂質土の変形・強度について 京都大学防災研究所 柴田 徹・○行友 浩・岡山県 小林裕司
- 10.15~10.35 (3) 砂層の振動性状におよぼす剛性変化の影響について 運輸省港湾技術研究所 荒井秀夫・○梅原靖文
- 10.35~10.55 (4) 砂質堤防の振動実験 運輸省港湾技術研究所 土田 肇・○野田節男
- 10.55~11.15 討 議 (1)~(4)
- 11.15~11.25 休 憩
- 11.25~12.15 特別講演-I 第4回世界地震工学会議報告 京都大学工学部 後 藤 尚 男
- 12.15~13.05 昼 食・休 憩
- 13.05~13.25 (5) 地震時における道床横抵抗力-木マクラギ軌道、地震時断面軌道の場合一 国鉄鉄道技術研究所○佐藤吉彦・小林 悟
- 13.25~13.45 (6) 地震時主働土圧についての実験的研究 山口大学工学部 大 原 資 生
- 13.45~14.05 (7) フィルダムの模型振動試験 東京大学生産技術研究所 岡本舜三・○田村重四郎・加藤勝行・小野公一郎
- 14.05~14.25 (8) 振動問題に対する光弾性実験法の応用 東京大学生産技術研究所 岡本舜三・○森地重暉
- 14.25~14.45 (9) 強震時構造物の弾塑性応答に関する模型実験 東京工業大学工学部○伯野元彦・四俣正俊
- 14.45~15.10 討 議 (5)~(9)
- 15.10~15.20 休 憩
- 15.20~15.40 (10) 曲げ振動系の非線形応答 東京都立大学大学院 国 井 隆 弘
- 15.40~16.00 (11) 地震時における桁橋内の曲げ振動伝播について 九州大学工学部・小坪清真、建設省土木研究所○原田謙二・九州大学大学院 鳥野 清
- 16.00~16.20 (12) 道路橋における地震応答の実測と解析 建設省土木研究所 栗林栄一・○岩崎敏男
- 16.20~16.40 (13) 吊橋上下部構造全橋の地震応答解析(補剛桁の橋軸方向振動について) 建設省土木研究所 栗林栄一・○小山田欣裕
- 16.40~17.00 (14) 高橋脚橋梁の振動実験に関する二、三の考察 東京大学生産技術研究所 久保慶三郎、日本道路公団技術部 栗原利栄・○武藤準彦
- 17.00~17.25 討 議 (10)~(14)

第2日：7月16日(水)

- 9.30~9.50 (15) ケーソン杭を合成し工基礎の振動解析 大阪市立大学工学部 倉田宗章、大阪工業大学工学部 岡村宏一
建設省近畿地方建設局○多田浩彦・大阪設計コンサルタンツ 進藤泰男
- 9.50~10.10 (16) 地盤振動の非線形性を考慮した鋼管橋脚の地震応答解析 九州大学工学部 小坪清真・九州工業大学工学部○高西照彦
- 10.10~10.30 (17) 杭基礎の地震時挙動について 九州大学工学部 小坪清真・九州大学大学院○荒牧軍治・川人達男
- 10.30~10.50 (18) 直梳棧橋の振動性状-杭頭加振と地盤加振との比較一 運輸省港湾技術研究所○山下生比古・運輸省第4港湾建設局 荒田昌彦
- 10.50~11.10 討 議 (15)~(18)
- 11.10~11.20 休 憩
- 11.20~12.10 特別講演-II：日本の超高層建築について 東京大学教授 梅村 魁
- 12.10~13.00 昼 食・休 憩
- 13.00~13.20 (19) 地盤と構造物の相互作用が地震記録に及ぼす影響 中央大学理工学部 片 山 恒 雄
- 13.20~13.40 (20) 地盤と上部構造物の相互震動作用の数値解析上の一考察 電力中央研究所技術研究所 林 正夫・○日比野 敏
- 13.40~14.00 (21) 地盤と構造物基礎の地震応答 京都大学工学部 後藤尚男・京都大学防災研究所○土岐憲三・京都大学大学院 高田至郎
- 14.00~14.20 (22) 軟弱地盤に立脚する構造物の振動性状について 早稲田大学理工学部 堀井健一郎・早稲田大学大学院○川原隼人
- 14.20~14.40 (23) 不規則外力を受ける基礎構造物の過渡応答 京都大学工学部 後藤尚男・京都大学防災研究所 土岐憲三・京都大学工学部○秋吉 卓
- 14.40~15.00 (24) 構造物の不規則振動に関する一考察-応答が一定レベルを越える回数について一 京都大学工学部 後藤尚男・○亀田弘行
- 15.00~15.30 討 議 (19)~(24)
- 15.30~15.40 休 憩
- 15.40~16.00 (25) 1968年十勝沖地震および余震の港湾地域における強震記録 運輸省港湾技術研究所○土田 肇・倉田栄一
- 16.00~16.20 (26) 1968年十勝沖地震による港湾被害と現行設計法による解析 運輸省港湾技術研究所○片山猛雄・中野拓治
- 16.20~16.40 (27) 土木構造物の耐震安全性について 京都大学工学部 山田善一・○竹宮宏和
- 16.40~17.00 (28) 公共土木施設の震害と経済上の対策 建設省土木研究所 栗 林 栄 一
- 17.00~17.20 討 議 (25)~(28)
- 17.20~17.25 閉会あいさつ

5. 講演概要：B5判、オフセット印刷、約125ページ、実費頒布(定価未定)

6. 懇親会：下記により開催致しますので、ご希望の方は、当日会場受付にお申込み下さい。

- (1) 日 時：7月15日(火) 18.00時から
- (2) 場 所：土木学会土木図書館5号室
- (3) 会 費：未定

第2回土木計画学講習会

◀ 東京会場; 8月28日(木)~8月29日(金) ▶
 ▶ 大阪会場; 9月4日(木)~9月5日(金) ▶

昨年8月実施致しました第1回土木計画学講習会に引き続き、第2回土木計画学講習会を下記要項に従って開催致しますので、多数ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

土木学会土木計画学研究委員会

1. 期 日: 東京会場/8月28日(木)~8月29日(金)
 大阪会場/9月4日(木)~9月5日(金)
2. 会場および定員: 東京会場/土木学会土木図書館講堂・定員160名
 (東京都新宿区四谷1丁目無番地/国電・地下鉄四ツ谷駅際外濠公園内/電 351-5130 番)
 大阪会場/大阪科学技術センター 401号室・定員160名
 (大阪市西区靱1丁目118番地/地下鉄3号線信濃橋下車北へ15m, 靱公園北東角/電 433-5321 番)
3. 参加費: 会員2500円, 会員外3000円(ただし, 1名当りの参加費・テキスト代を含みます)
4. 主 題: 調査計画と計画手法
5. 主 旨: 最近の土木事業は著しく大型化しており, その結果として, 必然的に計画の合理化が要請されてきております。また今日, 土木事業の計画部門に何らかの形で携さわる技術者の数が非常に多くなってきており, その結果, ある程度体系づけられた手法が提供される場が求められるようになって参りました。しかし, 土木工学における計画の手法はまだ未成熟であり, 一部で用いられている手法も, まだ広く土木分野の多くの技術者の知るところとなっております。
 この間の事情に鑑み, 昨年8月に開催致しました第1回土木計画学講習会に引き続いて, 今回「調査計画と計画手法」を主題とする2回目の講習会を開催することにしました。本講習会は土木計画学シンポジウムと異なり, 第一線の技術者に計画の基礎となる手法を学んでいたいただくことをおもなねらいとしております。関係各位多数のご参加をおすすめ申し上げます。
6. プログラム: <第1日>
 9.50~10.00 開会のあいさつ
 10.00~12.40 調査計画法および質問 名古屋大学 河上省吾
 14.00~16.40 情報の抽出および質問 建設省 中村慶一
 <第2日>
 9.00~11.40 L.P. および質問 京都大学 吉川和広
 13.00~14.50 バイパス計画の実際例 建設省 稲見俊明
 15.00~16.50 水資源計画の実際例 水資源開発公団 佐々木才朗
7. 申込方法: 参加希望者は ①氏名, ②所属, ③連絡先住所, ④会員区分, ⑤連絡事項を記入, 参加費同封のうえ8月10日までに下記宛申込みこと。
 <郵便番号160> 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会事務局編集課
8. 備 考: 担当(係)の電話番号は下記のとおりです。
 (03) 351-5130 番

第19回応用力学連合講演会講演募集

共 催: 日本学術会議力学研究連絡委員会・応用物理学会・日本造船学会・土木学会・日本機械学会*・日本建築学会*・日本航空宇宙学会・日本数学会・日本物理学会 一*印は幹事学会一

本講演会を活発にするために, つぎの要領により開催します。

1. テーマ別のシンポジウムとこれに関連した研究論文の発表/2. テーマにかかわらない研究論文の発表
- テーマ別のシンポジウムにおける特別講演は運営委員会が幾人かの方々をお願いします。研究発表は 1, 2 とも広く募集しますから, ふるって応募下さい。

今年のテーマは下記の3つです。

1. テー マ: A) 生体の力学・B) 材料力学および構造力学における数値計算法・C) 熱流体力学
2. 日 時: 1969年10月3日(金), 4日(土) 2日間
3. 会 場: 東京都勤労福祉会館会議室(東京都中央区新富町1丁目1番5号)
4. 申込期日: 1969年8月30日(月) 所属学会必着

5. 申込要領：講演申込はみ所属参加学会を通じて行ない、参加学会会員以外の方は直接幹事学会に申込みこと。講演内容はすでに発表されたものでさしつかえないが、最近の研究に属するものが望ましい。申込みは B 5 判の用紙に横書でつぎの事項を記載すること。

(ア) 講演題目/(イ) テーマの区分(上記の A・B・C いずれか、またテーマにかかわらない研究論文の場合は D とする)/(ウ) 概要 200 字以内/(エ) 講演ならびに連名者(協力者)の各氏名(連名の場合は講演者に○印をつけること)、勤務先、学会員資格、年齢/(オ) 連絡者の氏名および連絡先/(カ) スライド(35 mm に限る)の有無

注：(1) 講演時間は討論を含め 1 題目 20 分の予定/(2) 講演の採否は運営委員会にご一任願います/(3) お申込みの際は付記をご覧ください。

6. 論文抄録集：聴講者用のテキストとして論文抄録集を作ります。講演者は抄録原稿をつくり、講演申込学会へ下記により必ず期日までに原稿を提出して下さい。

(ア) 論文抄録(原稿)提出期日 7 月 25 日(金)/(イ) 必ず所定の原稿用紙を用いる、用紙は所属学会から講演申込者に送付します。所定以外の用紙に書いたものは受付けません。(ウ) 原稿用紙(図表・写真を含めて 1 枚当り 1620 字) 1 枚または 2 枚/(エ) 原稿はオフセットによりそのまま印刷されますから余白を残さないよう体裁よくめいりよにスミ書すること。写真も入れられます。(オ) 原稿の書き方は用紙とともに送付します。(カ) 講演者には論文別刷を 20 部贈呈いたしますが、抄録集は贈呈いたしません。(キ) 抄録集にはシンポジウムの特別講演も収録いたします。

[付記] 日本学術会議力学研究連絡委員会からのお知らせ：日本学術会議力学研究連絡委員会は、本講演会の論文のうちから適当なものを選定して欧文論文集を刊行する予定であります。本欧文論文集の原稿に関しては追って同委員会から連絡します。

鋼材使用による急速施工説明会

1. 主 催：鋼材倶楽部
2. 後 援：土木学会、ほか 5 団体
3. 開催日時：1969 年 5 月 9 日(金) 13.00~17.00
4. 会 場：日本生命ビル 9 階会議室(広島市中町 7 番 32 号、電話 広島(48) 1521)
5. 定 員：200 名(先着順)
6. 聴 講 料：1000 円(含テキスト代)
7. 申 込 先：鋼材倶楽部広島事務所(広島市基町 13-7(朝日ビル 3 階) 電話 広島(21) 6141)
 なお、詳細は直接鋼材倶楽部(東京都日本橋茅場町 3 丁目 16 番地(電話 東京(669) 4811)へお問合せ下さい。

東北支部事務局変更のお知らせ

東北支部では 4 月 1 日より下記へ事務局を移転しましたのでお知らせします。

新住所：仙台市北四番丁 38・丸七ビル 3 階
 電 (0222) 22-7255 (市電北四番丁下車)

中部支部行事案内(郵便番号 450 名古屋市中村区笹島町 1-18 名古屋鉄道管理局施設部工事) 第 1 課内 電(052) 551-8111 内線 266

昭和 44 年度第 1 回講演会

◀ 6 月 12 日(木) ▶

1. 日 時：1969 年 6 月 12 日(木) 9.30~16.30
2. 場 所：昭和ビル 9 階ホール(名古屋市中区南武平町 中日ビル東側)(電話 052-261-7751) 地下鉄栄下車徒歩 5 分
3. 講演内容：

① 9.30~10.30	高速道路の長期計画	講演者未定
② 10.30~12.00	東京高速道路の建設について	道路公団高速道路名古屋建設局長 堀内 弘 頭
③ 13.00~14.00	東名高速道路の土工と舗装工事について	道路公団高速道路名古屋建設局技術一課長 高木 十七二
④ 14.00~15.00	東名高速道路の橋りょうについて	道路公団高速道路名古屋建設局特殊設計課長 今村 浩三
⑤ 15.00~16.00	東名高速道路のトンネルについて	道路公団本社調査役 田島 利男
⑥ 16.00~16.30	映画『世界の道路と都市(第一部高速道路)』	
4. 定 員：200 名
5. 聴 講：無 料

中国四国支部行事案内(郵便番号 730 広島市基町 10 番 3 号(自治会館内)
土木学会中国四国支部事務局 電話広島(0822) 21-2666)

昭和 44 年度中国四国支部年次総会・特別講演会および学術講演会

1. 日 時: 1969 年 7 月中旬(見学会を含めて 3 日間の予定)
2. 場 所: 鳥取または広島
プログラム、講演概要の頒佈およびその他の事項については、学会誌 6 月号に掲載の予定です。
講演希望の方は、つぎの講演申込要領をご覧のうえ、お申込み下さい。

年次学術講演申込要領

- ① 講演申込方法: 講演希望者は部門、題目(200 字以内の概要を含む)、スライドの有無、勤務先、会員種別、学位、氏名(連名の時は、講演者に○印をつける)、卒業学校名および年次、連絡先を明記のうえ 5 月 10 日(土)までに土木学会中国四国支部事務局へ必着するように提出して下さい。
- ② 講演内容: 講演は未発表のもので 1 人 1 題にかぎります。
- ③ 講演時間: 1 題につき 15 分の予定です。
- ④ 講演部門: つぎの 4 部門に分けますが、都合により講演者の了承を得たうえで部門を変更させていただくことがあります。
第 1 部門: 応用力学・構造力学・橋梁等
第 2 部門: 水理学・水文学・河川・港湾・海岸工学・発電水力・衛生工学等
第 3 部門: 土質力学・基礎工学・土木機械・施工等
第 4 部門: 鉄道・トンネル・道路・コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・都市計画・交通・測量等
- ⑤ 原稿提出要領: 講演申込者はつぎの要領で講演概要の原稿を提出していただきます。
 1. 講演概要は、講演者の原稿をそのまま縮写してオフセット印刷としますから、必ず所定の用紙をご使用ください。
 2. 用紙は執着要領(原稿の書き方)とともに講演申込者に中国支部事務局からお送りいたします。
 3. 原稿は 6 月 16 日(月)(期限厳守)までに中国四国支部事務局へ必着するようお送り下さい。
 4. 原稿の長さは、1 題につき 2 ページまたは 4 ページ(図表、写真を含め 1 ページ 1620 字詰)を原則とします。超過する場合は 2 ページまで 1 ページにつき 2000 円の製版料を申し受けます。また別刷の場合は別に印刷料を負担ねがいます。
6. 講演概要: 講演者(○印)には無料、一般は有料

水の産業科学展示会 1969 開催のお知らせ

本年 9 月、国立京都国際会館において、第 13 回国際水理学会議が開催されるに際し、土木・機械・船舶など水力学・水理学関連分野の各種企業の国内国外における活動状況を示す広報資料および計測機器その他の製品を一堂に展示し、わが国産業および科学技術の現状を国外・国内の会議参加者にひろく紹介するとともに、製品の普及宣伝に資するため標記の展示会を開催します。

- 会 期: 1969 年 8 月 31 日(日)~9 月 6 日(金)
会 場: 国立京都国際会館(京都市左京区宝ヶ池) 5 階展示場 約 470 平方メートル
主 催: 「水」の産業科学展示会 実行委員会(東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会・気付・電話 03-351-5130)
協 賛: 土木学会・日本機械学会・日本建設機械化協会・日本水道協会・日本造船学会<50 音順>

●展示会参加申込みに関する問合せ先

- 上掲の実行委員会、または下記の受付事務代行者
共 栄 通 信 社
本 社: 東京都中央区銀座西 8-2-1(新田ビル) 電話 03(572) 3381(代)
関西営業所: 大阪府吹田市片山町 3-4-14 電話 06(388) 6171
日本技術弘報協会
東京都千代田区三崎町 2-4-12(岩本ビル) 電話(261) 3366

第7回接着研究発表会および接着破壊の機構討論会の 開催日変更について

本誌 54 巻第 3 号会告でお知らせしました標記の行事は下記のとおり変更になりましたのでお知らせします。

記

「第7回接着研究発表会」

(新)		(旧)	
会 期:	1963 年 6 月 3 日 (火) ~ 4 日 (水)	;	9 月 5 日 (木) ~ 6 日 (金)
会 場:	安田生命ホール (国電新宿駅西口)	;	東京工大講堂

「“接着破壊の機構” 討論会」

会 期:	1969 年 6 月 5 日 (木)	;	6 月 7 日 (土)
会 場:	安田生命ホール (国電新宿駅西口)	;	東京工大講堂

第 13 回国際水理学会会議 (The 13th Congress of IAHR)

参加申込締切期日: 6 月 30 日

開催期日: 8 月 31 日 ~ 9 月 5 日

1. 日 時: 1969 年 8 月 31 日 ~ 9 月 5 日

2. 会 場: 国立京都国際会館 (京都)

3. 講演題目:

- ・一般講演; A. Simulation techniques in water resources systems
B. Poly-phase flows
C. Estuary hydrodynamics and tsunamis
D. Hydodynamics of flow in porous media
- ・セミナー; 1. Supercautitation
2. Laboratory and field measuring-techniques in research on hydraulic machinery and equipment
3. Modification in river morphology and their simulation
4. Generation and analysis of random waves
- ・特別講演; 1. Fortier: Non steady flow in pipes
2. Vasiliev: Problems of the two-phase flow theory
3. Numachi: Ultrasonic shock waves emitted by cavitation

4. 会 費: IAHR 会 員 12600 円
非会員 18000 円
同伴者 5400 円
学 生 3600 円 (ただしすべての social events への参加は認めない)

5. 参加申込方法:

- (1) IAHR 会員および非会員で参加申込希望者は下記宛 Bulletin No. 2 (申込用紙を含む) を請求して下さい。ただちに Bulletin No. 2 を送ります。
- (2) 学生は各大学, 研究機関の指導教授が申込書をまとめて, 申込用紙を請求して下さい。
- (3) 申込用紙に必要事項をご記入の上, 6 月 30 日までに, ご提出下さい。同時に会費をお納め下さい。

6. 申 込 先: 京都市左京区吉田本町

京都大学工学部土木工学教室内 第 13 回国際水理学会会議組織委員会事務局

申込締切期間は厳守いたします。事務進行上期日後は一切受け付けません。ご了承下さい。

IAHR シンポジウム——“Hydraulic Machinery and Equipment in the Atomic Age”——
(原子力時代における水力機構と装置)

開催地：スウェーデンのストックホルム

期 日：1970 年 8 月 23 日～26 日

Registration date (登録日)：1970 年 8 月 23 日

Technical Sessions (専門部会)：1970 年 8 月 24 日～26 日

テ ー マ：“Hydraulic Machinery and Equipment in the Atomic Age”

タイトル中のは，“in the Atomic Age”は、このシンポジウムは、ごく最近の研究および開発に焦点を絞ることを示す。詳細なプログラムは 1970 年初頭に配布されるのでシンポジウムの Secretary まで問い合わせること。住所は下記のとおり。

Mr. P.G. Fällström
Secretary of IAHR Symposium 1970
c/o Swedish State Power Board
S-16287 VÄLLINGBY, Sweden

論文の申し込み：

論文提出希望者はタイトルとその論文の要旨を（英語または仏語で）1969 年 9 月 15 日までに提出すること。

要旨はタイプ打ちで 2 ページ（図表を含む）

採用通知：1969 年 11 月 15 日まで

採用されたら、1970 年 1 月 31 日までに、英語または仏語で本文、要旨を英仏両語でつけ加えて、論文を提出。

研究旅行：

最終プログラムおよび研究旅行の詳細費用は、1970 年初めに配布。

Earthquake Resistant Design for Civil Engineering Structures, Earth Structures and Foundations in Japan. 1968 B5・140 1600円(〒70)

わが国の耐震工学に関する研究は今や世界の注目を集めている。本書は世界地震工学会議を記念して編集され、今回改訂された英文による耐震規定、土質工学会、国際大ダム会議、日本水道協会、運輸省港湾局などが協力した国際版。

Civil Engineering in Japan, 1968 A4・154 1200円(〒110)

学会編集の英文年報の最新版。昨年で 7 冊目を刊行。日本の土木技術を広く海外へ紹介するため、豊富な写真、図版を盛り込み、各種工事のトピックス、専門分野の展望などを解説。海外旅行のお土産に好適。バックナンバーあり。

Coastal Engineering in Japan, Vol.11 1968 B5・190 1500円(〒90)

海岸工学講演会の発表論文の中から、その年度の代表的研究と見られる論文を委員会が選定し、英訳したもの。日本の海岸工学の業績は今や国際的であり、広く海外との技術交流のために刊行している英文刊行物。

③ 土木計画学シンポジウム B5判・132頁 700円

最新刊

第3回土木計画学シンポジウムについて(鈴木雅次) 第2回土木計画学シンポジウムにおける総括討論のまとめ(米谷栄二) 土木計画の考え方——第1回および第2回土木計画学シンポジウムの整理と検討——(委員会幹事会) 道路工学・交通工学の周辺における2,3の事例(枝村俊郎) 景観計画における計量化(鈴木忠義・村田隆裕) 道路計画における計量化(山根孟) 鉄道貨物輸送における設備計画と計量化(菊地宏) 全国幹線交通モデルの開発に当って——計量化の方法と問題点(伊藤博) 港湾計画における計量的手法例と問題点(小池力) 構造物の設計における安全率の選択(島田静雄) 上下水道計画における計量化とその問題点(末石富太郎)

〈既刊〉

土木計画学講習会テキスト 1 B5判・122頁 800円

土木計画問題のシステム化——ネットワークシステムを例にとって(吉川和広) 調査方法および資料整理(高橋裕) 道路計画の基礎資料(山根孟) 将来予測の一般論(加藤晃) 港湾の整備計画(高田陸朗) 都市用水需要の将来予測(首藤和正)

① 土木計画学シンポジウム B5判・134頁 700円

- 委員長挨拶(鈴木雅次)
- 総論 土木計画と土木技術(八十島義之助) 土木計画と公共投資(加納治郎) 土木計画と土木技術へのコメント(米谷栄二)
- 土木計画手法に関連して 土木計画とオペレーションズリサーチ(吉川和広) 計画基礎数理(佐佐木綱) 土木計画手法への反省(五十嵐日出夫) 施工管理計画(佐用泰司) 土木計画手法に関連して(渡辺新三)
- 総合計画に関連して 国土・地域計画(川北米良) 土木計画と都市計画(秀島敏彦) 地域に関連する計画における土木計画(井上孝)
- 総合開発と社会開発に関連して 土木計画のあり方と基礎理念—水資源計画部門(西川喬) 防災計画(石原安雄) 環境衛生計画—公害を中心として(山本剛夫) 観光計画論から土木計画論へ(鈴木忠義) 産業開発と社会開発に関連して(高橋裕)
- 交通計画に関連して 地域計画と交通(内田一郎) 起終点施設計画と土木計画(長尾義三) 大都市問題と交通計画(毛利正光) 都市鉄道計画の基礎理念(多谷虎男) 交通施設投資の計画体系について(天野光三) 交通計画に関連して(小川博三)

② 土木計画学シンポジウム B5判・120頁 700円

- 第1回土木計画学シンポジウムにおける土木計画のあり方と基礎理念に関するまとめ(米谷栄二)
- 水資源計画 水需要量の予測と計画決定の合目的性(佐々木和彦) 河川の総合的開発利用計画(北野章)
- 交通計画 コンゴ共和国の鉱山品輸出増強計画(立花文勝) 道路計画(星野哲三) 港湾における計画目標の設定と評価の基準(長尾義三) 都市交通計画(新谷洋二) 地域と交通(加藤晃)
- 都市計画・地域計画 理論都市・地域計画への試み(毛利正光) 地域計画に関する一考察(大塚友則) 都市計画・地域計画(渡部与四郎・ほか)

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京16828



土木学会

定評ある
土木学会
のトンネル
工学書

トンネル 標準示方書

A 5・36頁
100 円
〒 50 円

トンネル 標準示方書 解説

A5・130頁 600 円
会員特価 500 円
〒 70 円

関門トン ネル工事誌

B 5・692頁
2000 円
会員特価 1500 円
〒 200 円

お申込みは前金で送料
を添えて下さい。

郵便番号 160
東京都新宿区四谷1丁目

土木学会

電話 351-4131(直)
振替 東京 16828

トンネル工学シリーズ 1

第1回トンネル工学シンポジウム

B5判・106ページ トンネル用鋼アーチ支保工の設計施工について / 長
400 円・会員特価 大トンネルの地質 / トンネル工事における災害の実
300 円(〒50 円) 情について / 高熱トンネルの施工について / 名古屋
市高速度鉄道のシールド工法について / わが国トン
ネル施工のすう勢と問題点について

トンネル工学シリーズ 2

最近のトンネル工学—工事の実例と話題— 〈第2回トンネル工学シンポジウム〉

B5判・136ページ トンネル標準示方書制定について / 青函トンネルに
500 円・会員特価 ついて / 国鉄新丹那トンネルについて / 羽田海底ト
400 円(〒50 円) ンネルについて / 富士川用水導水トンネル工事に
ついて / AN-FO爆剤とその発破法

トンネル工学シリーズ 3

第3回トンネル工学シンポジウム

B5判・146ページ トンネル土圧 / トンネル土圧の測定方法と現況 / ト
1000 円・会員特価 ンネル用鋼アーチ支保工の強度について / トンネル
掘削における余掘りの実態について / セグメントの
300 円(〒70 円) 設計について / 栗子トンネルの工事計画と施工実績
について / 国鉄親不知トンネルの施工実績について
/ 青函トンネルにおけるウォールマイヤー式トンネ
ル掘削機の掘削試験について / 大阪地下鉄複線型
と単線型シールドの実施例と問題点 / シールド工法
による駅部の施工計画について / わが国における中
小口径シールド工事の現況について

トンネル工学シリーズ 4

わが国シールド工法の実施例・第1集

B5判・338ページ 第I部 工事概要 / 第II部 設計および実績 / 第III
2200 円・会員特価 部 セグメント / 第IV部 シールドおよび付属機械
1800 円(〒110 円) / 第V部 工所用機械その他 / 第VI部 主な図表類
/ 付録
鉄道および道路・下水道・上水道・電力および通信
・地下道その他に分類 158件を収録

トンネル工学シリーズ 5

第4回トンネル工学シンポジウム〈最新刊〉

B5判・268ページ ソ連の地下鉄 / アメリカのトンネル工事を視察して
1800 円・会員特価 / アメリカにおける山岳トンネル工法 / アメリカに
1600 円(〒80 円) おけるトンネル掘き機 / アメリカにおける都市ト
ンネル / アメリカにおけるコンサルタント業務 / ア
メリカにおける請負工事の諸事情について / アメリ
カのトンネル施工に関する新技術 / 欧州のトンネル
工事を視察して / 欧州におけるトンネル請負工事の
諸事情について / 欧州における山岳トンネル工法 /
欧州におけるトンネル掘進機について / 欧州のシ
ールド工事 / 欧州における地下鉄工事 / 欧州における
沈埋工事